

第 57 回日本作業療法学会に参加して

有久 勝彦^{1), 2)}

- 1) リハビリテーション・エンジニアリング 編集委員会
2) 関西福祉科学大学 保健医療学部

1. はじめに

第 57 回日本作業療法学会が 2023 年 11 月 10 日（金）から 12 日（日）の期間で沖縄コンベンションセンターにて開催された。当学会は後日オンデマンドでも配信され、オンデマンド配信期間は現地閉会の翌日である 2023 年 11 月 13 日（月）から 12 月 24 日（日）の 1 か月半に渡るものであった。参加者は会場参加 2,480 人、Web 参加 835 人、合計 3,315 人であった。今回、現地にて参加した様子について報告する。

2. 学会のテーマ

学会のテーマは「ものごとの仕組みに注目する - 作業療法における問題解決の糸口として -」である。コロナや ICT など社会が変わっていくことで生活を取り巻く環境も著しく変化中、病院や施設、地域で生活する上では社会情勢に伴った変化を知る必要があり、生きる上での仕組みを意識することで生活をより豊かに、そして安心に近づけることができるという考えのもと、作業療法として問題解決を図る上での糸口として何が提案できるのかについて様々な観点から議論の場が設けられていた。学会は学会長講演に始まり、基調講演 3 題、教育講演 2 題、シンポジウム 3 題、日本 - 台湾作業療法ジョイントシンポジウム 2 題、インドネシア作業療法士協会との国際企画プログラム、専門作業療法士セミナー 11 題、SIG を中心とした企画セミナー 19 題、英語セッションを含む一般演題発表 1,425 題など日本だけでなくアジアを中心とした世界の情勢も考えることので

きるような多くの企画が用意されていた。また、機器展示 25 社、書籍展示 5 社とリハビリテーションの最新の事情にも触れる機会も用意されていた。

3. 会場の様子

会場が沖縄であるという事もあってか多くの参加者が来場し、会場では立ち見の状況が散見された。参加したセミナーでは、急性期の脳血管障害の作業療法への対応として、ボツリヌス療法を併用した作業療法について話を聞くことができた。作業療法ではボツリヌスの効果に合わせた治療が重要であり、医師とのコミュニケーションは必須であるという話を聞き、急性期においても作業療法士としてコミュニケーションを大事にする視点は重要であると感じることができた。また、臨床研究におけるデータ分析についても教育講演で話を聞くことができた。臨床データのアウトカムにおいて交絡をいかに防ぐことができるか、その手法として回帰分析を題材とした実践方法を教示いただき、大変参考になった。その他、一般演題発表も多く聴講させていただいた。会場は対面での活気に溢れており、学習意欲を掻き立てられる学会であった。

来年は北海道で第 8 回アジア太平洋作業療法学会が開催される。続けて日本作業療法学会も開催されるという事で、アジア、日本の事情を知ることのできる大きなイベントとなる。今から参加が楽しみである。



図 1 会場入り口の看板と会場（奥）

- 1) リハビリテーション・エンジニアリング 編集委員会
2) 関西福祉科学大学 保健医療学部

〒582-0026 大阪府柏原市旭ヶ丘 3-11-1